

## 第66回 埼玉県美術展覧会審査評

### 【第2部 洋画】

審査主任 おかだ ただあき  
岡田 忠明

埼玉県美術展覧会は、出品点数では全国トップクラスの県の展覧会です。

第66回展の洋画部門では1308点の応募があり、520点の入選、39.8%の入選率という狭き門でした。

一審、二審、三審と厳正に審査を行い、特に会員審査では全作品を「2回」審議し確認しました。一審では入選が239点、保留が353点、選外が716点。二審では353点の保留作品から、281点が入選となり、三審では、76点の賞候補作品から16点の受賞が決まりました。落選点数788点、もう一步という作品も多数ありました。更に委嘱作品の選考では、よりレベルの高い版画を含む2作品が決まりました。

今年の傾向は写実的な作品から具象、シュールの作品、抽象作品、更に表現の幅を押し広げるような、今までにない新鮮な魅力ある作品が多く、幅広く受賞されています。伝統的な写実表現で誠実にまとめ上げた17歳、18歳の高校生2人も受賞しました。表現の幅が一層広がり多彩になり、内容豊かで、より幅の広がった作品を鑑賞することができます。

#### ・埼玉県知事賞

くろはえいち  
「黒南風Ⅰ」 せき きょうこ  
関 恭子

昨年の「黒南風Ⅱ」(くろはえに 黒南風とは梅雨を呼ぶ黒い雲だそうです。)に続いての受賞となります。震災を意識されたテーマだと思いますが、作品の力強さと共に、希望とも思える明るさや豊かさが加わり、更に魅力的な作品となっています。枕木状の木片、コンクリート片、鳥、そして金属のボルトといった硬・軟・繊細なモチーフの組み合わせも面白く、力強く密度のある空間は深く計算された画面です。

内容的に重いものを美しい色彩でまとめ上げた作品です。

・埼玉県議会議長賞

「春を待つ」  
はる ま 井田 い だ よしこ 善子

本作品はしっとりとしたモノクローム調で、重厚感があり作者の気迫を感じました。人物のフォルムと背景、ソファと床それぞれの配色のバランスが絶妙で、独特の格調高さを醸し出しています。

画面の中に赤やエメラルドグリーンの色片を効果的に配して、生き生きとした生気を与えています。

・埼玉県教育委員会教育長賞

「椅子」  
いす 田畑 たばた あすか 明日香

毎日の生活で椅子に座っている機会が多いのでしょうか。自分の部屋の椅子をモチーフに、愛情を込めて、生活の様子が伺える画面構成になっています。新聞からの情報も画面全体に明るい色調でバランス良くまとめています。紙フーセンは作者の心の中のこだわりなののでしょうか。

・埼玉県美術家協会賞

「レモンティー」  
かるこめ 軽込 たかのぶ 孝信

やわらかな陽射しに包まれた一部屋の情景を描いており、心地良く素直な作品です。銜わぬ平明な表現が見る人の心を和ませています。

これからも楽しく研鑽を重ね、優しくも内容の豊かな作品を生み出すよう念じています。縞目も色彩も美しいです。

・埼玉県美術家協会賞

「飛翔（サギ草）」  
ひしょう 飛翔 そう (サギ草) はせがわ 長谷川 よしえい 好衛

サギ草の構図はバランスをうまく掴んでいます。

花に命が感じられますが、花卉の変化に工夫が欲しかったと感じます。また、土質に明るさがあればより調和が取れたのではないかと思います。花卉の色調は明暗に一考してほしいです。

今後に期待しています。

・埼玉県美術家協会賞

「<sup>かぜ</sup><sup>なか</sup>風の中メールする<sup>じょせい</sup>女性」 <sup>おおの</sup>大野 <sup>まさあき</sup>昌昭

柔らかな陽射しの中で煙草を吸いながらメールする女性の何気ない姿が、確かなデッサン力と落ち着いた色調で表現されています。グレー調の背景の中、光を受けた女性のコートが美しく、風に舞い上がった髪の毛も女性らしさとその場の雰囲気を感じさせる素晴らしい作品だと思いました。

・埼玉県美術家協会賞

「<sup>と</sup><sup>う</sup><sup>も</sup><sup>ろ</sup><sup>ー</sup>TOMORROW - Y4」 <sup>くどう</sup>工藤 <sup>のぶよし</sup>信芳

この作品は「TOMORROW-Y4」と題名が記すとおり、明日に向かって植物の芽生えをイメージしたものか、10cm角程のタイル状の形の上に新芽のパターンが画面全体を埋めています。色調も統一感があり、とても好感の持てる作品です。単純な造形の繰り返しは時に強さを感じさせます。これから、どう展開していくのか楽しみな作家です。

・さいたま市長賞

「<sup>わたし</sup><sup>おお</sup>私を覆っているもの」 <sup>わたなべ</sup>渡辺 <sup>ふさこ</sup>房子

この作品が審査室に現れた時は「オー、きれいだ」と数人から声がもれました。私もその一人です。

油彩、ミックストメディアと記してある様に絵肌は透明、不透明の層に釘状のものでキズをつけて味を出し、その上に蜜ろうで画面を覆い層を造りモダンな作品に仕上がっています。果たして、作家を覆っている「もの」は？

・さいたま市議会議長賞

「<sup>はいかんにせんじゅうろく</sup><sup>えすぴー</sup>配管2016 SP」 <sup>やまだ</sup>山田 <sup>くにおき</sup>邦興

日々の生活で見慣れているガスをモチーフとしていますが、今回はより確かな安定した表現となっています。

モノクロームの色調でその効果を高め、作者の生活観が感じられるまで

に確かな作品にまとめられています。

・さいたま市教育委員会教育長賞

「こんぶばんや昆布番屋のみさき岬ふしこ（伏古）」 つつみ堤 としお利夫

荒ぶる風と凍てつく雪に閉ざされた北国の岬、ひなびた番屋群……。いとおしさと励ましを心に秘めて描き上げた傑作です。あらがえぬ自然に立ち向かい、丹念に取材を重ね、深い色を力強く塗り重ねた美しさをいかに発揮して、敬意をも感じます。

極寒の自然にひたつての作画は力強く心に残ります。

・埼玉新聞社賞

「かんじゃく閑寂」 えじり江尻 ももか百花

基本に忠実な静物画です。形と色、平面と奥行き、量感と質感、明暗と中間調子等、静物画の基本的な課題である様々な「つり合い」を、静かなる構成美として一つにまとめ上げた秀作です。受賞決定後、高校生の作品と知りましたが、大人以上に大人びた、冷静な観察眼と構築力に基づいた静物画です。若い時にこうした基本的な油彩画造形を追求し学ぶことは、とても良いことです。これからも末永く絵画を探求し続けて欲しいと思いました。

・産経新聞社賞

「かなた彼方」 わたなべ渡邊 りょうた涼太

余計なものをそぎ落としたシンプルで力強い構図が目を引きました。シンプルですが単調では無く、描かれた要素全てを使って画面の流れを作っているのも良いと思います。

確かな観察とデッサン力に裏付けられた描写で、見ごたえのある作品になっています。特に陰の色が綺麗なのがとても良いと思いました。

モデルをただ写し取っているのではなく、モデルの内面をも描くような高い精神性を感じます。作者は高校生、今後の成長が楽しみです。

・日本経済新聞社賞

「悠久ゆうきゅうの祈いのり」 永江ながえ 咲紀子さきこ

とても日本的な油彩画です。お仏像を主題とした出品作も多くありました。その中でも本作品は、一見朦朧たる画面ではあるものの、油絵具の重厚なマチエールの中に光と空気の振動を宿しつつ、題名の通り「悠久の祈り」の心情が、仏さまの面影と佇まいと溶け合いながら浮かび上がってくる感じがします。受賞選考の審査中、多様な作風の中で、本作品は暖かく輝いていました。

・毎日新聞社賞

「森もりの奏そう」 青山あおやま 久子ひさこ

色のバランスがとても良い作品だと思います。森の中に時々ヘラクレス的人物が現れ、この絵全体を締める役割をしているように見えます。四角の中の絵一つ一つを見ていると楽しくもあり、見ている側も夢がふくらみます。淡いトーンと締める色の割合、細かく刻んだ四角の中の植物達、それらが一つにまとまると、とても新鮮に見えてきます。とても好感のもてる作品だと思います。

・NHK さいたま放送局賞

「流水りゅうすいもん文」 齋藤さいとう 行宏ゆきひろ

水の流れる様子をしっかりと観つめられ、水墨画を思わせるトーンでいて、複雑な抑えられた色合いの美しさを感じさせてくれます。不透明水彩により、しっかりとした色の置き方で描かれ、白と黒のバランスが良く、水の流れが実に美しく描かれている作品だと思います。

・読売新聞社賞

「サーカスはふねのの船に乗って」 じんぼ まさはる  
神保 雅春

ユニークで仕事のしっかりした作品です。サーカスと船という、意表を突いた組み合わせによる設定を用いて、浮遊から生じる視点の組み合わせの妙味を面白く演出しつつ、ユーモラスでシュールな世界を造り出しています。コクのある描写と色彩感覚を伴った構成も、作品世界の魅力と説得力を後押ししています。受賞選考では、完成度の高い異色な作品として、審査員の目に留まり続けました。

・埼玉県美術家協会会長賞

「春はるあさ浅たかはしき」 みきこ  
高橋 美紀子

横長 50 号サイズのキャンバスです。描こうとする美しい風景（岐阜・白川郷）の構図にキャンバスのサイズを合わせ、丁寧に描かれています。つまり描こうとするイメージが固まり、必然性のあるキャンバスの形やサイズを選んだことがわかります。色は雪景色の白、灰色がほとんどですが、適確なデッサン力により気持ちの良い画面造りができています。無彩色の色を最後まで生かし、近景の桜の花びらの白やピンクが、より清潔で、より美しい花びらに感じられます。完成度の高い秀作だと思います。

・高田誠記念賞

「静せいひつ謐せいきの精ひかり祈どうていじゅうろくのごえー・光の道程 1 6 - 5 A」 きじま たかお  
木島 隆夫

シルクスクリーンという技法による版画作品です。作者は写真を使用した製版技術を駆使し、版画という平面的になりがちな空間に、深い透明な三次元空間を造り上げています。製版、刷りといった難しい経験のいる技術を伴う表現方法ですが、見事に美しい画面に変貌させています。近くに行くとよく見ると色彩、コンポジション、不思議なモチーフの組合せ等、様々な魅力も見えてきます。